

僕が愛したすべての君へ

君を愛したひとりの僕へ

「確かにあそこにはなかったはずなのに……」「なんでこんな勘違いしてたんだろう……」あなたにはそんな経験はないだろうか。普通、ただの記憶違いだと思うだろう。でもひょっとするとそれは、少しだけ違う並行世界に迷い込んでしまったからなのかもしれない——。

今回はそんな、並行世界にまつわる一対の物語を紹介しよう。絡み合いながら進む二つの物語は、どちらももう一方の「続編」になっている。さあ、あなたはどちらから読むだろうか？ (海月)

誰もがよく似た並行世界の間を日常的に揺れ動いていることが実証された世界。両親が離婚したのち母親と暮らす少年・暦はある日、特に親しくもなかったはずのクラスメイト・和音にやけに親しげに声をかけられた。85個隣の並行世界で暦と恋人同士だったという彼女と、暦はぎこちなくも人生を共に歩んでいくことになるのだが——。

並行世界のすべての君を、僕は同じように愛することができるだろうか？ 『僕が愛したすべての君へ』は、並行世界が当たり前となった世界で、迷いながら和音を愛する暦の一生を描いている。並行世界との関わりの中で、二人が出した結論。きっとあなたをあたたかな気持ちにしてくれるはずだ。これは無限の並行世界の中で寄り添いあった二人の、優しい愛の物語。

そして、物語は交差する。ただ主人公が同じだけの二つの物語にも思えるが、これらは『僕が愛したすべての君へ』の序章と終章で合流し、大きな一つの物語となるのだ。こうして幸せな恋と切ない恋が交わることで、幸せながらも少し悲しい、あるいは切ないながらも少し救われる、そんな深みが加わっている。すべてを読み終えて、最後にこの交差点に戻ってきたときにあなたが感じるのには幸せか、切なさか。読む順番によって感想は大きく変わるだろう。二冊の本という形で見事に表現された並行世界の、対照的な二つの恋。同時進行する不思議な感覚とともに、あなたにぜひ味わってみてほしい。

誰もがよく似た並行世界の間を日常的に揺れ動いていることが実証された世界。両親が離婚したのち父親と暮らす少年・暦は、父の勤める研究所で出会った少女・菜と親交を深めていた。ある日互いの親同士の再婚話が持ち上がり、二人はこのままでは結ばれないと、自分たちが兄妹にならない並行世界へと逃避行を試みたのだが——。

君を救うためには、僕はいったいどうしたらいいだろうか？ 『君を愛したひとりの僕へ』は、逃避行に失敗して菜を一人不幸にしてしまった暦が、迷うことなく彼女を想い続けた一生を描いている。彼女を救うために、暦が一生かけてたどりついた答え。きっとあなたは切ないと感じてしまうだろう。これは一つの世界で彼女と添えなかった彼の、狂おしい愛の物語。

さあ、あなたはどちらから読むだろうか？



『僕が愛した  
すべての君へ』

著者：乙野四方宇  
出版社：早川書房  
価格：670円（税込）



『君を愛した  
ひとりの僕へ』

著者：乙野四方宇  
出版社：早川書房  
価格：670円（税込）